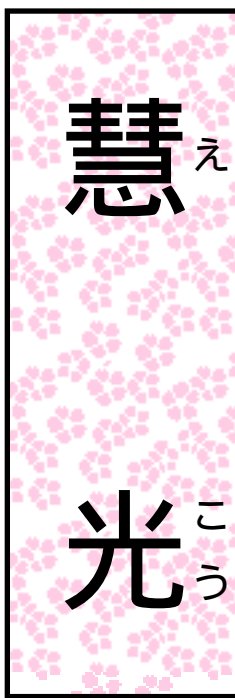




主(中学生)無きとて春な忘れそ (桜の花ですが・9日撮影)



金光寺寺報  
第190号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
0982  
83-2338

今月のことば

仏の御名をきくひとは ながく不退にかなうなり

今月のことばは、親鸞聖人の『浄土和讃』の一首です。阿弥陀さまと浄土の徳について讃嘆されていて、この一節には阿弥陀仏のみ名の功德が示されています。

仏のみ名とは南無阿弥陀仏の六字ですから、南無阿弥陀仏を聞くということです。お念仏は自分の口でナンマンダブと称えるので、南無阿弥陀仏とは称えるものなのですが、それを聞くと表現するところに浄土真宗のみ教えの特徴があります。

阿弥陀さまは、この私を救わずにおかないと願いをしておされました。その願いは、『仏説無量寿経』の第十八願に「われに任せよ、わが名を称えよ、必ず浄土に生まれさせよう」と誓われています。

み名を聞き、南無阿弥陀仏の六字に込められた仏の願いを聞いて、そのはたらきの中に生か

されている私であることに気付かされました。私の口から出てくるナンマンダブは、ともに歩んでくださる仏の声でありました。そのような念仏者となったなら、決して迷いの人生を過ごすことはないということを、「ながく不退にかなうなり」と示されています。「ながく」というのは、ずっと仏さまとともに歩む人生のことをいいます。

今も煩惱具足の凡夫であることに違いはありません。南無阿弥陀仏のこころを聞いたからといって、腹を立てることのない聖人君子のように立派な人になることができるわけではありません。思い悩みは尽きなくとも、それでも、ともに歩んでくださる仏さまのはたらきを常に身近に感じながら過ごす生き方が、念仏者には開かれているのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 4月 15日(土)午後 ~ 16日(日)
5月 14日(日) 終日
22日(月) 終日
6月 1日(木) ~ 2日(金) 午後(後日)
24日(土) 終日
25日(日) 終日
8月 5日(土) 終日
9月 14日(木) 終日
10月 21日(土)午後 ~ 22日(日)

3月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2017年 3月12日寂 満93歳
長峯 甲斐次男様

ホームページ開いています。
URL http://konkhoji.jp/
4月8日現在 アクセス数 78,934人

今月三日から五日まで、二泊三日で関西に旅行に行つて参りました。主たる目的は「本願寺第二十五代専如門主伝灯奉告法要」の団体参拝でした。高千穂組(そ)からは総勢百七人が参加。私は法要で本山御影堂(ごえいどう)の内陣に結衆(けつしゅう)として出勤しました。おかげで普段は御影堂外陣から遠く拝見していた親鸞さまの御真影(ごしんねい)を身近に拝見することができ、感激しました。おつとめは本格的な作法にのつとめが行われ、事前練習があつたのですが、いざ、本番になると緊張もありきちんとできたかは不安でした。が、同じく出勤された方々と同様の行動ができ、何とか無事につとめられたことが嬉しかったです。出勤できたうえに記念品の中啓(ちゆうけい)と出勤手当までいただきました。ありがとうございました。また、本山の内部にも入ることができました。いつまでの命かわりませんが、ご縁があればもう一度出勤したいなと思つてい

ます。その時は、一緒に参拝しよう。(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

幡(旗)

テレビは、ソウルオリンピックで一色です。開会式をご覧になりましたか。各国選手団が自国の国旗を先頭に堂々と入場しました。また、入賞した選手を表

彰式には、国旗が掲揚されます。しかし、ハタは国旗だけではありません。シンボル、信号、儀礼、装飾と、数多くの種類があり、その用途はさまざまです。仏教では、ハタとは仏・菩薩の威徳を表わす荘嚴具です。インドの語「パターカ」を音写して「幡」と書きました。大法要や説法などのときに、寺の境内や本堂に飾つたもので、三角形の首部の下に細長い幡身(ばんしん)をつけ、その下から数本の脚を垂れた、ノボリ的一种です。これに触れると滅罪の功德が

あるとか、これを作れば八苦を離れる利益があるなどといわれているものです。中国で「旗」というときは、軍旗のことだったようですが、今では、すべてのハタの総称となりました。ところで、このオリンピックでは、何本の日の丸が上がりま

すかね (本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇PART-1から)

住職ひとりごと



# 葬儀と和讃

先々月から葬儀関連の仏事でつとめるご和讃について掲載しています。今月は葬場勤行(葬儀)でつとめるご和讃のお示しを皆さんとともに味わいたいと思います。

## 葬場 勤行

(原文)

本願力にあひぬれば

むなくすぐるひとぞなき

弘徳の宝海みちみちて

煩惱の濁水へだてなし

(現代語)

本願のはたらきに出会ったものは、むなく迷いの世界にとどまることがない。あらゆる弘徳をそなえた名号は宝の海のように満ちわたり、濁った煩惱の水であつても何の分け隔てもない。

(原文)

如来浄華の聖衆は

正覚のはなより化生して衆生の願樂ごとごとくすみやかにとく満足り

(現代語)

阿弥陀仏の浄土の聖者がたは、さとのり花からおのずと生れ、あらゆる願いが速やかに満たされる。

葬場勤行では、「正信念仏偈」に続き、この二首をつとめます。

この二首は『三帖和讃』の中、「高僧和讃」天親讃にあります。

天親とはインドの菩薩さまで七高僧の一人です。『浄土論』というご書物を書かれました。ですからどちらのご和讃も『浄土論』を依りどころとしています。

まず一首目ですが、「へだて」という語が出ています。これはものをさえぎるといふことです。濁った水はものを

透き通すことがありません。それと同じように煩惱も私たちの視界をさえぎり、ものをありのままに見せてくれません。そこで煩惱の濁水といわれ、私たちが生死の苦海に沈めてきたのです。

そんな私たちが阿弥陀如来の本願のはたらきにお会いすれば、空しいときを過ごすことなく、功德が身に満ちて、濁った水のような煩惱も仏への妨げになることはないとお示しください。

故人を送る儀式にあたり、私たちは、「本願力に遇う」ことのありがたさを聞かせていただくのです。

二首目、「化生」という語があります。仏教では、誕生の仕方を次の四種に分類して

- 胎生：人間のよう母胎から生まれること
- 卵生：鳥等のように卵から生まれること
- 湿生：うじ虫などのように湿度の中から生まれること

と 化生：神のように依りどころなく忽然と成人のまま生まれること

このご和讃の「化生」は前記四分類によるものではなく、浄土で仏になることを意味しています。

このご和讃は、如来の清らかな花の中の聖なる方々は、さとのり花に生まれでて、あらゆる人々の願うところを、即座に備えていることをお示しください。

また、「願樂」とは願いのことですが、私たちの欲望を満たすような願いではなく、衆生が究極に求めるもの、すなわち、煩惱による生き死にを繰り返すことがなくなる「無生の生」といわれるものなのです。

お浄土に救われた故人と同様に私たちも、阿弥陀さまのおはたらきで「無生の生」のお慈悲を賜われるといただきます。

(和讃二首の原文・現代語は、紙面の都合上字体を小さくしました)

# 法語の世界

〈原文〉

徳大寺の唯蓮坊、撰取不捨のことわりをしりたきと、雲居寺の阿弥陀に祈誓ありければ、夢想に、阿弥陀のいまの人の袖をとらへたまふに、にげけれどもしかととらへてはなしたまはず。撰取といふは、にぐるものをとらへておきたまふやうなることと、ここに思ひつきたり。これを引き言に仰せられ候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 二百五)

〈現代語訳〉

徳大寺の唯蓮坊が「撰取不捨」とはどういうことなのか知りたいたいと思つて、雲居寺の阿弥陀に祈願しました。すると、夢の中に阿弥陀仏が現れて、唯蓮坊の衣の袖をしっかりととらえ、逃げようとしてもけつしてお放しにならなかったのだそうです。この夢によつて、撰取といふのは、逃げるものをとらえて放さないようなことであると気づいたといひます。蓮如上人はこのことをよく例に引いてお話しになりました。

## 法事日時について

法事の日時について、ご連絡をいただいた順に日程を決めています。希望の日時がありましたら、早目にご連絡ください。

なお、年回忌法要はお命日を過ぎてつとめても大丈夫です。

## 初盆会の日程について

毎年、初盆会にご連絡を頂いた順に日程を決めています。本年初盆をお迎えするお宅で、時間を決めて法要後のお齋をお考えのところは早目にご連絡ください。

なお、下記は日程が決まっています。

記

8月13日 10時、11時、12時、13時、14時

8月14日 11時、12時、15時

